

産業建設常任委員会記録

平成 2 6 年 1 1 月 2 7 日

【開催日】 平成26年11月27日

【開催場所】 議会会議室1

【開会・散会時間】 午後2時25分～午後2時45分

【出席委員】

委員長	松尾数則	副委員長	河崎平男
委員	大井淳一朗	委員	杉本保喜
委員	中島好人	委員	長谷川知司

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

建設部長	佐村良文	建設部次長兼下水道課長	多田敏明
人事課主幹	大谷剛士		

【事務局出席者】

局次長	清水保	庶務調査係主任	角紀子
-----	-----	---------	-----

【審査事項】

- 1 議案第79号 平成26年度山陽小野田市下水道事業特別会計補正予算
(第2回)について

午後2時25分 開会

松尾数則委員長 それでは産業建設常任委員会をただいまから開催いたします。

本日の出席は6名全員ですので、委員会は成立しておりますので、御報告をいたします。傍聴はありません。それでは、議案第79号について執行部からの説明を求めます。

佐村建設部長 議案７９号につきましては人事異動及び人事院勧告についての補正であります。詳細につきましては担当課より説明させます。よろしくお願いいたします。

多田建設部次長兼下水道課長 下水道課です。議案第７９号平成２６年度山陽小野田市下水道事業特別会計補正予算（第２回）について御説明いたします。このたびの補正は、人事異動及び人事院勧告についての補正であり、歳入歳出とも６９３万６，０００円を減額し、予算総額を２９億３，６５３万１，０００円とするものであります。予算書５、６ページを開きください。まず歳入ですが、４款繰入金１項一般会計繰入金１目下水道事業費繰入金１節下水道事業費繰入金６９３万６，０００円の減額は、人件費の調整に係る財源調整であります。続きまして予算書７、８ページをごらんください。次に歳出ですが、１款下水道事業費１項下水道事業費１目下水道事業一般管理費は、９６９万５，０００円を増額するものであります。内訳といたしまして、２節給料５０１万５，０００円の増額は、人事異動によるものが４９５万９，０００円の増、人事院勧告によるものが５万６，０００円の増であります。３節職員手当等２９８万４，０００円の増額は、人事異動によるものが、２７４万６，０００円の増、人事院勧告によるものが２３万８，０００円の増であります。４節共済費１６９万円の増額は、人事異動によるものが１６３万６，０００円の増、人事院勧告によるものが５万４，０００円の増であります。１９節負担金、補助及び交付金６，０００円の増額は、人事異動によるものであります。次に２目施設管理費は１，０１６万４，０００円を増額するものであります。内訳といたしまして、２節給料５２２万円の増額は、人事異動によるものが５２０万５，０００円の増、人事院勧告によるものが１万５，０００円の増であります。３節職員手当等３１６万円の増額は、人事異動によるものが３０１万９，０００円の増、人事院勧告によるものが１４万１，０００円の増であります。４節共済費１７７万８，０００円の増額は、人事異動によるものが１７４万９，０００円の増、人事院勧告によるものが２万９，０００円の増であります。

19節負担金、補助及び交付金6,000円の増額は、人事異動によるものであります。次に3目水質管理費は、全体で351万円を減額するものであります。内訳といたしまして、2節給料196万1,000円の減額は、人事異動によるものが198万3,000円の減、人事院勧告によるものが2万2,000円の増であります。予算書9、10ページをお開きください。3節職員手当等116万8,000円の減額は、人事異動によるものが120万7,000円の減、人事院勧告によるものが3万9,000円の増であります。4節共済費38万1,000円の減額は、人事異動によるものが39万4,000円の減、人事院勧告によるものが1万3,000円の増であります。次に4目下水道建設費は、全体で2,328万5,000円を減額するものであります。内訳といたしまして、2節給料1,390万1,000円の減額は、人事異動によるものが1,398万8,000円の減、人事院勧告によるものが8万7,000円の増であります。3節職員手当等536万円の減額は、人事異動によるものが582万8,000円の減、人事院勧告によるものが46万8,000円の増であります。4節共済費400万6,000円の減額は、人事異動によるものが411万1,000円の減、人事院勧告によるものが10万5,000円の増であります。19節負担金、補助及び交付金1万8,000円の減額は、人事異動によるものであります。全体として、減額となった主な要因は、人事異動により職員が1名減となったことによるものであります。以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

松尾数則委員長 以上で執行部の説明は終わりました。それでは、委員のほうから質疑を受けたいと思います。質疑のある方は挙手をお願いいたします。

大井淳一郎委員 人事院勧告については先ほど総務の委員会のほうで委員会可決がありました。人事異動で1名減ということだけでさえスタッフ不足で原課も大変だろうと思いますが、なぜ1名減に至ったのか。おわ

かりであれば理由を説明してください。

大谷人事課主幹 全体的な話になりますが、通常退職者を今まで採用を希望するというか退職者補充ということで行ってきていましたが、昨年度については普通退職ということでは年が明けて退職を希望されたという方がいらっしやいまして、その採用試験など全て終わった後の退職希望ということで、それから退職者補充するための採用の手続が取れなかったということもありますので、全体的に見て職員が減となったということもありますので、それでなぜ下水道が減になったかということは職員を配置する中で大変申しわけありませんが、下水道課のほうで1名減となってしまったということになります。

大井淳一郎委員 今お話を聞くと普通退職者が出たことによる人事異動だと思うんですけども、当然現在やられている体制が新年度の工事があるし、控えているのに厳しいかなと思うんですけども、補充する考えは人事課のほうであるのかなのか。新年度以降ですね。原課がもし希望していればですが。

多田建設部次長兼下水道課長 人事のほうへの御質問だったと思いますが、4月1日の異動によりまして私も下水に参りました。その段階で土木の技術職員が1名減となり頭数上ではおるように見えるが、1人は電気専門職ということで水処理センター関係を専任している状況です。そういう中で25年度の繰越事業が交付決定のおくれとかいう形の中で繰越率が非常に高いという問題が一つ、現佐村部長からも提起されまして原課としましても繰越事業ということについて今すごく神経を使っておるような状態にあります。そういう中で26年度の繰越事業はないかということと繰越事業はあります。繰越事業として処理していかなければならない案件と考えられる案件を抱えております。そういう中で一つには25年度の繰越事業の精算分がそのまま26年度の新規事業の執行に時間を要していくという悪循環が生まれている。これは現佐村部長からも指摘を受

けておりましてその悪循環をどう改善していくかということを下水道課長職である私のほうへ投げかけられております。いろんな手段を考えると、人が減ったからできないよというのは言いたくはないんですが、現実問題1人いるかないかによって1人のノルマという言い方はしたくないんですが、分担、担当事業自体の数自体を平準化できるということ。それによって執行可能になるのではという考えを持っている。したがっていましてなるかならないかは別にしまして現状、それから抱えておる問題点の解消のためにはやはり人員確保を当局へ要望していく。これは工務関係だけではなく事務方のほうも台帳整理とか業務委託をかけてお金で済む話の部分ではありますけれども、逆に業務委託をかけて数千万円かけるよりも臨時職員でもいいからそれに専従できるようなそれは2年。大体おおむね2年くらいで台帳整理がきれいな形でデータ処理ができてパソコン上の中で誰もが共有できる情報を確立できるというふうに部下から聞いております。そういう中で議員御指摘の案件につきましては、人員不足により執行が困難になっているとは原課としては言いませんが、やはり適切な執行に向けて人員増についての要望は人事課を通じて当局トップのほうにも訴えていきたいと考えております。

大井淳一郎委員 業務の性質上のことがあるかもしれませんが、今再任用が今年度から始まっておりますが、その再任用の活用について下水道とすれば可能なのか。その辺について。

多田建設部次長兼下水道課長 一応再任用というのは非常に喜ばしいかなというふうに思っています。特に技術職員、今年度の3月31日をもって退職された技術の職員での再任用も数人おられます。ただ数人おられる中でもったいないなと考えておる部分もありますし、逆に再任用を持って人員が増加された部分もあります。そういう中で再任用であろうとそうでなかろうとやはり数は力だと。これが未経験者が来て、土木の未経験者が来ておっても少なくとも勉強しながらでも1本、2本でもカバーしてもらおう。ないしは翌年には3本、4本になっていくという見通しが立

つことによって事業計画の安定執行につながると考えますので、そのあたりは言葉を尽くして要望要求していきたいと考えます。

中島好人委員 マイナス693万6,000円のことですが、早い話プラスが何ぼでマイナスが何ぼか。という話なんです。人事勧告で幾らプラスになって職員1名減になって結果マイナスになっているという話でないとわかりづらいです。人事院勧告がふえているのに何でマイナスになっているのか。それは職員は1名減ったから、人事院勧告はどうなっているのか、こういう話でわかりやすくもう一度説明してほしい。

大谷人事課主幹 全体のマイナスのほうで693万6,000円ということでその内訳で人事勧告分と人事異動分ということでございますが、人事勧告分につきましては126万7,000円の増額になります。人事異動分は820万3,000円の減額となっています。

長谷川知司委員 これは人事課のほうにお聞きしますが、採用ができなかったとか応募がなかったということで職員が減るとするのは仕方ないと思います。ただ、その手だてとして、今もあったんですが、職員が足りなかったら外部委託する費用を財政課と話してみるとか、そういうことはしないんですか。

大谷人事課主幹 私どものほうとしては、下水道課に限らずいろんな部署で人が足りないということで人的な増員を要望されているということもありまして、これは当然財政的な面も含みますので、財政課と協議をしながら最終的には市長との協議になりますが、その中で手だてできるものにつきましては、ハローワーク等を通じて募集をかけておるということで、かけておるものもありますが、技術系の職員というか、募集についてはなかなか応募がないという状況で、事務系についてもなかなか応募がない時期。時期が4月とか人が動く時期であれば結構募集とかあるんですが、年度の途中とかになるとなかなかもう勤められている方とかいらっ

しゃいますので、なかなかスムーズにいかないというところもありますので、できるだけ財政的なもので許される範囲であればそういった補充とか担当課の御意見を聞きながら業務に支障がないように進めていきたいとは思いますが、現状はなかなか今できていないという状況かもしれません。

長谷川知司委員 慢性的な不足について当然人員配置ならしょうがないです。ただし、一時的にボリュームがあるから足りないときはそれなりに外部委託等で処理せざるを得ないというのが実情です。その要望を例えば下水道であれば下水道、土木、建築、都市計画がするとき人事サイドも一緒になってそれについてはバックアップするということでない事業課はどうしてもやはりかわいそうな面がありますので、その理解をよく人事課もバックアップして財政サイドに行くということがいいのではないかなと思いますので、担当事業課とよく話をされるようにしてください。

松尾数則委員長 これは要望でいいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

河崎平男副委員長 先ほど土木に関する技術職員が減ということも言われておりましたし、繰越事業もたくさんあると。そういう事業をする中でトップに訴えていくということについては、庁内でシステム化されている適正管理のヒアリングなどで訴えていくということで理解してもよろしいですか。

多田建設部次長兼下水道課長 人事のことにつきましては人事のヒアリングがございます。そこでまず訴えます。その前に言い方が悪いんですけども実情をステージは別にしてですね、人事のほうに訴えていくという手法も取らせていただいておりますのが現状です。ただそういう事実を如実につかまえておいていただいて正規の場において再度述べていく。そういうことを重ねていくことによって言うておることの真実、信憑性を高め

ていって御理解を深めていただいて実現していただきたいと、いう流れになろうかと思います。

杉本保喜委員 退職された方は定年退職ではないんですよね。依願退職でしょう。

多田建設部次長兼下水道課長 私の知っている限り技術職員は満期退職です。定年退職です。現実再任用されている方、技術職員は満期退職です。

杉本保喜委員 減というのはいわゆる満期を迎えて定年退職みたいなものですか。

大谷人事課主幹 下水道課で退職されたとかいうことではなくて市全体的な話の中で退職された方と後採用ということが、たまたま人員配置の上で結果的に下水道課が1名配置が減になってしまいました。

中島好人委員 先ほど人事勧告の影響で126万7,000円とありましたが、人数は何人が該当するんですか。

大谷人事課主幹 下水道課の関係でございますので、14人の方になります。

松尾数則委員長 部長さん、下水道にとって27年度は非常に大事な年よね。その大事な時期に1名取られた。これでいいのかなという気がするんだけど。

佐村建設部長 私もことしの4月に来たので、どういう事情で下水道が減になっているか今始めて知ったんですけれども、さすがに足りないとは思っています。ただ、私ことしの決算のときも発言したと思うんですが、人事課は土木技術職を募集している。受けて結局は合格しなかったということも私は知っていますので、こちらが求めている、人事課もそれを受

けて採用の募集をかけている。結果的に入ってこないのは何年か続いていたと思うんです。当然こちらの必要だということを人事課とは別に離れた話ではないので、汚水処理整備構想というのが27年度にあってそれでどういうふうに整備していくか決まるわけですが、それとは別に現在の公共下水道の整備、まだまだ管渠を延ばしていかないといけない中で技術職がどうも足りないとは私は4月から思っていたんですけども、やはりそういう事情で少なくとも1人は足りないという感覚はあります。人事にもそれは理解していただいております。

松尾数則委員長 質疑はこれで終わります。それでは討論に入りたいと思います。討論のある方はいらっしゃいますか。（「なし」と呼ぶ者あり）なければ採決に入りたいと思います。議案第79号平成26年度山陽小野田市下水道事業特別会計補正予算（第2回）について賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

松尾数則委員長 全員賛成であります。よって、議案第79号は原案どおり可決すべきものと決しました。以上で産業建設常任委員会を終わります。ありがとうございました。

午後2時45分散会

平成26年11月27日

産業建設常任委員会委員長 松 尾 数 則